

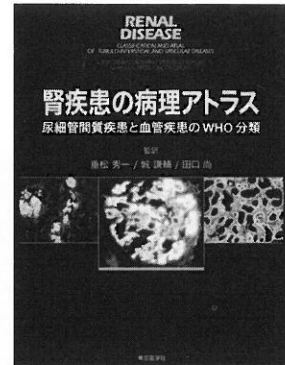
## 図書紹介

### 腎疾患の病理アトラス

—尿細管間質疾患と血管疾患のWHO分類—

監訳：重松秀一，城 謙輔，田口 尚  
東京医学社 2005年，定価 18,900円

国立病院機構千葉東病院臨床研究センター免疫病理研究部  
城 謙輔



尿細管間質病変は，その大部分が非特異的病変であるという理由で注目されなかった時代があった。しかし，昨今，尿細管・間質，血管病変が研究分野で注目されはじめ，とくに進行性腎障害に関して，これまでの糸球体病変一辺倒でなく，尿細管・間質，血管病変が糸球体病変から独立して，腎不全への進行に関与することが動物実験や人体材料から明かにされつつある。そして，これらの研究成果の蓄積を基盤として，日常の腎生検において，どのような病変が実際に起こっているのかを，病理形態を通じて整理され，しつこくは今後の研究にフィードバックされる必要性が生じて来た。

我が国では，未だ，尿細管・間質，血管病変を中心としたアトラスはなく，それを作成することを企てる目的で，その基準となる“Renal Disease. Classification and Atlas of Tubulointerstitial and Vascular Diseases. S. V. Seshan, V. D. D'Agati, G. A. Appel, J. Churg 著，William Wilkins 社，1999年”の原本を手にしたところ，写真の豊富さと解説の周到さに圧倒された。そこで，まず，この原本の翻訳から始め，それを土台に，ステップアップする方針に切り替えられた。日本語への翻訳にあたり，著者の一人であり，近年懇意にいただいている D'Agati 先生に相談したところ，Seshan 先生が紹介された。Seshan 先生は，腎臓病理の父と呼ばれる高名な Churg 先生の弟子で，原本に見られる豊富な腎病理コレクションが新しい世代にこのような形で受け継がれていることがわかった。また，日本語の翻訳アトラスに原版が使用できるように，すべてを快く貸していただけることになった。そのため今回の翻訳版には原著よりきれいな写真を掲載することができ，さらに，掲載料も節約できたため，翻訳本としては比較的廉価な定価にすることができた。

米国では，このように世代から世代に腎病理の資料が伝承されている。我が国でも日本腎病理協会が2002年に発足し，結成当初の会員が力をあわせて翻訳にあたった。これらの作業を通じて専門用語の統一がある程度図られたように思う。今後，我が国においても，腎病理医が腎疾患の診断，治療，予後予測など診療に役立つ一流の腎病理アトラスを作って行ける土台ができることを期待している。

## 図書紹介

### 原稿募集

このコーナーへの投稿をお待ちしております。ご執筆された著書などの紹介を掲載しています。600～1000字程度で編集室までお寄せください。

〒152-8902 目黒区東が丘2-5-1  
国立医療学会誌「医療」編集室「図書紹介コーナー」係宛  
e-mail: iryo@kankakuki.go.jp  
fax: 03-3411-9421